

力に関係があると考えられる。教員数がすくないため、1人で2教科以上担当しなければならない。そのための、教材研究、指導法の研究が必要となり、これを可能にするのはある程度の経験年数である。この現実がまた、次の免許状と学力、ひとり当たりの担当教科数と学力との問題に関連している。

つぎに、授業担当教科の免許と学力、ひとり当たり担当教科数と学力とは関係がある。すなわち、主免による担当教科の授業時間数の割合の大きい学校の学力は高く、ひとり当たり担当教科数の多い教員の割合の多い学校の学力は低い。

学歴および経験年数別構成

		下位群		上位群	
		M校	O校	S校	W校
職員数		9人	9人	11人	9人
学歴	大学卒	7	6	5	1
	短大卒	2	1	2	1
	師範卒		1	1	5
	旧中・新高		1	3	2
	その他				
経験年数	1年未満		1		
	1～2	3	1	1	
	3～5	4			
	6～10	1	1	2	
	11～15		5	6	3
	16～20	1	1		4
	21～25			1	1
29～			1	1	

1週間の総時数に対する免許科目の時間数の割合

		下位群		上位群	
		M校	O校	S校	W校
総時間数		197時間	193時間	223時間	194時間
主	免	49.2%	39.4%	62.8%	72.2%
副	免	16.2	23.9	1.4	8.2
臨	免	34.6	33.7	35.9	15.6

一人当たりの担当教科数

		下位群		上位群	
		M校	O校	S校	W校
教員数		9人	9人	10人	9人
1	教科	2	1	2	3
2	教科	3	2	6	3
3	教科以上	4	6	2	3

## ② 生徒の学習に対する態度

生徒の学習に対する構えについて、質問紙によりとらえ、上位群と下位群の学校における差異を $\chi^2$ 検定によって検討し、学力との関係を明らかにした。その

結果について、純農村地域の学校で、危険率5%ないし1%で有意と認められた項目は次のとおりである。

3 あなたは、授業中、意見などの発表を、よくしますか。

	M校	S校
すすんで発表する	21.7%	34.3%
先生からきかれたとき	37.7	51.6
はずかしいので、あまりしない	36.7	10.1
発表しない	2.9	4.0

12 あなたが家でやる勉強には、どんなものが多いですか。

	M校	S校
あしたの予習が夜い	21.7%	48.5%
復習や練習が多い	18.8	16.2
学校から宿題が多い	23.2	10.1
好きな、不得意な	29.1	24.2
読書をする	4.3	1.0
特に勉強しない	2.9	

・授業中における意見の発表 ・授業中における問題解決 ・家庭における学習の動機 ・家庭における学習の内容 ・宿題の解決態度

このことから、まず、授業中の学習に対する積極的なとり組み方が学力に影響をあたえる要因であるといえる。すなわち、上位群には、意見があるとき、すすんで発表するに反応した者が多く、まちがうとはずかしいからあまり発表しないという消極的な態度が下位群に見られ、さらに問題解決にあたっては、参考書やノートを見て自分で解決しようとする構えが上位群に見られる。

つぎに、家庭における学習に対する自主的な取り組みが学力を高める要因であると考えられる。学習に対する動機づけ、内容などから推察することができる。

## 7 診断的性格を帯びた福島県標準学力検査問題

### (1) 目的

昨年度からの継続事業として、本年度は、中学校1年2年の社会・理科、中学校3年の英語の問題作成をとりあげた。

この問題を、学年末に実施することによって年度における指導の反省、個々の生徒・学級・学校の全体的な位置づけができる。また、年度はじめに実施すれば、レデネテストとして、個々の生徒の学力や、学級・学校の傾向を診断して、年度の指導計画作成の基礎資料とすることができる。

### (2) 問題作成の経過